

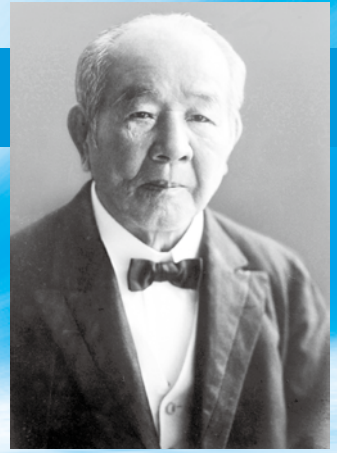
NHK大河ドラマ「青天を衝け」放送開始！

渋沢栄一と太平洋セメント

2024年に発行される新一万円札の顔となる渋沢栄一。「日本資本主義の父」と呼ばれ、500社以上の会社創設や約600の社会公共事業の他、民間外交にも尽力した人物です。2月14日から放送が始まったNHKの大河ドラマ「青天を衝け」の主人公にもなっています。

実は、渋沢栄一は当社とも関係が深いことをご存知でしょうか？

幕末から明治維新という激動の時代に日本経済の礎を築いた人物は、日本のセメント産業発展にも大いに影響を与えていました。



渋沢栄一ってどんな人？

天保11（1840）年2月13日、現在の埼玉県深谷市に生を受けます。実家は畑作、養蚕、藍問屋を営んでいました。

7歳から従兄である尾高惇忠（おだか・じゅんちゆう）に漢籍を学び、14歳より家業を手伝いますが、その目利きの良さで才覚をあらわしていきます。

以前から封建的な江戸幕府の体制に反感を抱いていた渋沢栄一は「尊王攘夷」という思想に共鳴し、「高崎城乗取り」や「横浜焼き討ち」を企てますが説得され計画を中止します。幕府からの追及を逃れるため、渋沢栄一は伊勢神宮参拝を名目に郷里を離れ京都へ向かいますが、これには江戸遊学の折から交際のあった一橋家家臣である平岡円四郎の力添えがあったとされています。京都では平岡の計らいで一橋慶喜に仕えることになり、様々な働きで実力を発

揮しここでも才能が認められます。27歳の時にパリ万博使節団としてフランスへ赴き、欧州諸国を見聞したことが大きな刺激となり、帰国後は明治政府・大蔵省の一員として新しい国づくりに力を発揮していきます。大蔵省退官後は数多くの企業創設と社会公共事業、民間外交に携わりました。

渋沢栄一を読み解く キーワード

「合本（がっぽん）主義」

公益を追及するという使命や目的を達成するためには最も適した人材と資本を集め、事業を推進させるという考え方。

「道徳経済合一」

企業の目的が利潤の追求にあるとしても、その根底には道徳が必要であり、国ないしは人類全体の繁栄に対して責任を持たなければならないという意味。大正5（1916）年の著書『論語と算盤』にて「道徳経済合一説」としてその理念を述べています。

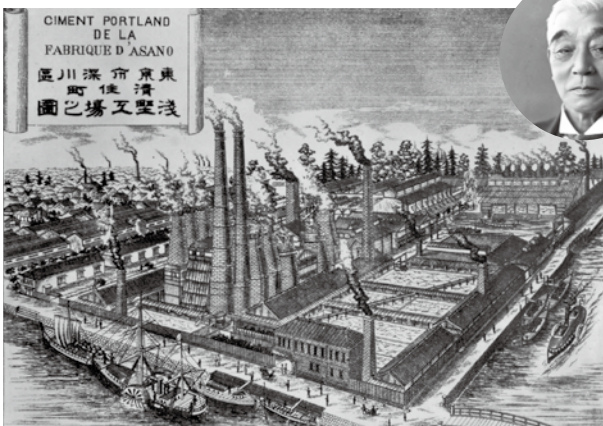
浅野セメント（日本セメント） と渋沢栄一

渋沢栄一は大蔵省を退官後、明治6（1873）年6月に第一国立銀行総監役となります。また同年に抄紙会社（後の王子製紙）を創立します。明治9（1876）年頃、王子製紙のコークスを処分・引き受けるとともに常磐炭を納入していた浅野総一郎を渋沢栄一が見かけ、興味を持ったとされています。

これがきっかけとなり浅野総一郎は渋沢栄一の紹介を受け工作局幹部に接触することができ、「工部省深川工作分局」が貸下げられます。これが明治17（1884）年7月に「匿名組合浅野工場」となり、明治31（1898）年に「浅野セメント合資会社」、大正元（1912）年に「浅野セメント株」となります。

小野田セメント（田原工場） と渋沢栄一

明治15（1882）年2月に旧田原藩

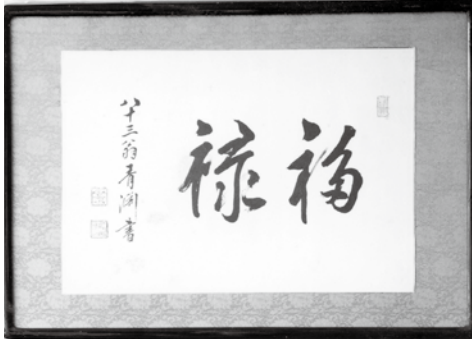


▲浅野総一郎



▲小野田セメント株田原工場

◀明治23年頃の浅野工場



▲大正11年8月3日に渋沢栄一が揮毫した書
現在は秩父太平洋セメント(株)で所蔵

士の授産事業の一つとして「東洋組」が発足します。しかし、明治24(1891)年4月に経営不振に陥り、債権者である第一国立銀行の管理下に移ります。ここで渋沢栄一は私財を投じて再建を図ります。同年、渋沢栄一の指示により工場運営は浅野セメントに委託され、明治28(1895)年に委任経営が解かれるまで続きます。明治31(1898)年6月に三河セメント(株)として再興し、昭和15(1940)年5月東洋産業(株)田原工場、昭和18(1943)年7月1日に小野田セメント(株)田原工場となります。

秩父セメントと渋沢栄一

秩父セメントの創業者、諸井恒平は渋沢栄一のいここにあたります。渋沢栄一は若くして父親を失った諸井恒平をいつも気にかけ、明治20(1887)年10月に設立した「日本煉瓦製造(株)」に書記として入社させ実業家の道へと誘います。

また、渋沢栄一は郷土埼玉の発展にも注力しており、諸井恒平が役員

に名を連ねていた上武鉄道(現在の秩父鉄道)の経営指示や、武蔵水電(株)の設立(これにより秩父鉄道は全国の私鉄に先駆け全線電化)などに携わります。

大正11(1922)年8月3日、渋沢栄一は秩父地域発展のための開発を計画する諸井恒平らとともに、数えで83歳という高齢にもかかわらず秩父のセメント工場予定地の視察に出かけます。このような経緯を経て大正12(1923)年1月30日に秩父セメントが設立されます。

当社協賛ぞくぞく!

このように渋沢栄一と深い関係がある当社。今年は様々な企画に協賛予定です。これまでに掲載されたものや間もなく掲載されるものを紹介します。ぜひ皆さんもチェックしてみてください。

■毎日新聞出版

「Newsがわかる 渋沢栄一がわかる」

(2021年1月8日発売)

ニュースを分かりやすく解説する「月刊Newsがわかる」の特別編です。渋沢栄一とともに埼玉県発展に寄与した人物として、諸井恒平を取り上げています。

■埼玉新聞「青淵の世明け」

(2021年3月16日掲載予定)

埼玉新聞では渋沢栄一の精神を伝える「青淵の世明け」プロジェクトを企画。郷土の偉人である渋沢栄一について、1年にわたり様々な企画特



集を掲載する予定です。3月16日の紙面では、渋沢栄一が日本のセメント産業発展にどう関わったのかを15段(一面)の漫画で紹介します。

*「青淵」とは…

渋沢栄一の雅号(画家・文筆家などが、本名の他に付ける風流な別名)。学問の師である尾高惇忠につけてもらったもの。名前の由来は実家の下に淵があり、淵上小屋と名づけられていたことによる。

■テレビ埼玉「シブサワ解体深書」

(2021年6月放送予定)

1月14日から始まった番組。毎週木曜日19時から30分間の放送です。お笑い芸人の三四郎が渋沢栄一の足跡をたどります。当社は2週にわたり番組で取り上げられる予定です。

見逃し配信があり、全国で視聴可能です。

<https://www.teletama.jp/shibu-kai/>



▲操業当時の秩父セメント(株)秩父工場



▲諸井恒平

読者プレゼント

「Newsがわかる 渋沢栄一がわかる」を3名の方にプレゼントします。所属・氏名を明記の上、「社内報でこんな企画があったらいいな」を記入して総務部IR広報グループ(ir-com@taiheiyo-cement.co.jp)へお送りください。応募者多数の場合は抽選とします。締め切りは3月31日(水)必着です。